

トシコ、新コーティング技術

下地の凹凸加工不要

【川越】トシコ（埼玉真川越市、諏訪部充弘社長）は、粘着物に対し離型性が高く、基材表面に凹凸をつける下地加工が不要なコーティング技術「UNA-1200」を開発した。6月から受託加工を始める。接触する相手材へのダメージが少ないため、搬送機械などで採用を働きかける。価格は個別見積もり。非粘着性コーティング加工「トシカルSコーティング」の一つとして、シリーズ全体の売上高を現行比20%増に引き上げる。

来月から受託を開始

UNA-1200は、テープといった粘着物を発揮する。セロハンコーティングする基材、着物への非粘着性を持つテープに対し10ミリの表面に、ラベルやシートを貼る。材料の配合に0.03ミリの力で剥がせ、フッ素樹脂加工よりもくつきにくいのが特徴だ。



▲非粘着性コーティング加工を施すとゴムが触れてもくつきがない（写真は従来シリーズの「TS-1000」）
●非粘着性コーティング加工の未加工品。ゴムが触れるとくつきしてしまう

粘着物に離型性高く

従来のトシカルSコーティングと比べ、基材の変形がないほか、コーティングの厚みが10ミリの未満（マイクロは100万分の1）と薄膜で、基材の寸法や外観変化が小さい。欧州の特定有害物質規制（RoHS）、化学品規制（REACH）にも対応するなど環境に配慮した。

トシコはフロロコト（埼玉真川越市）の子会社。金属やガラス、セラミックスなど基材の特徴を保持しながら表面のみを別の性質に変える表面改質加工が専業。新コーティングは従来、顧客に特別注文で対応していたが、ニーズが見込めると判断し、シリーズ化を決めた。